

*WebFOCUS*研修補足資料
(*WebFOCUS 8.1.05*)

はじめに

本テキストについて

本テキストはWebFOCUS研修コースを受講された方向けの補足資料です。WebFOCUSの関連マニュアルや研修環境の設定についてまとめられています。

対象

「WebFOCUSアプリケーション開発 入門」「WebFOCUSアプリケーション開発 応用」コースを受講された方。

製品のバージョン

本テキストで解説しているWebFOCUS、App Studioは以下のバージョンを使用しています。

- ・WebFOCUS 8.1 SP05
- ・App Studio 8.1 SP05

テキスト中の表記について

画面中に表示される文字の表記

- ウィンドウ、ボタン、メニューなど、画面に表示される文字は「[]」で囲んで表記しています。
- 画面上に表示される選択肢や、入力する文字については「|」で囲んで表記しています。

ディレクトリの表記

- 本テキストではファイルのパスを表す際、すべてデフォルトのインストールディレクトリを基準に表記しています。
- WebFOCUSのインストールディレクトリは「C:\¥ibi」となります。お客様の環境と異なる場合は、適宜読み替えて下さい。

コマンドの構文規約

値	この表記は、ユーザが適切な値に置き換えて指定することを表します。
{ 値1 値2 値3 }	この表記は {} の中から、いずれか1つを選択することを表します。
[値]	この表記はその指定が任意に指定できる、オプションの指定であることを表します。必ずしも指定する必要はありません。

- ・Microsoft、Windows、Microsoft Office、その他本書に記載されるマイクロソフト製品は、米国Microsoft Corporationの、米国、日本及びその他の国における商標または登録商標です。
- ・Linuxは、LinusTorvalds氏の日本及びその他の国における商標または登録商標です。
- ・OracleとJavaは、Oracle Corporation及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における商標または登録商標です。
- ・Apache、Tomcatは、Apache Software Foundationの商標または登録商標です。
- ・Adobe、Adobeのロゴ、Adobe Reader、Acrobat、Flashは、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- ・Mozilla、Firefoxの名称及びそのロゴは、米国Mozilla Foundationの米国及びその他の国における商標または登録商標です。
- ・その他、記載されている会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。
- ・本書では、®、©、TMマークなどは特に明記していません。
- ・本書に記載された内容を使用して、いかなる損害が発生しても、株式会社アシスト、及び、著者、本書製作関係者は一切責任を負いません。

目次

1 データベース接続の設定 (データアダプタ)	1
1.1 データベース接続の設定 (データアダプタ)	1
2 研修環境の設定	5
2.1 研修環境の設定	5
3 関連マニュアル	12
4.1 関連マニュアル	12

1 データベース接続の設定（データアダプタ）

1.1 データベース接続の設定（データアダプタ）

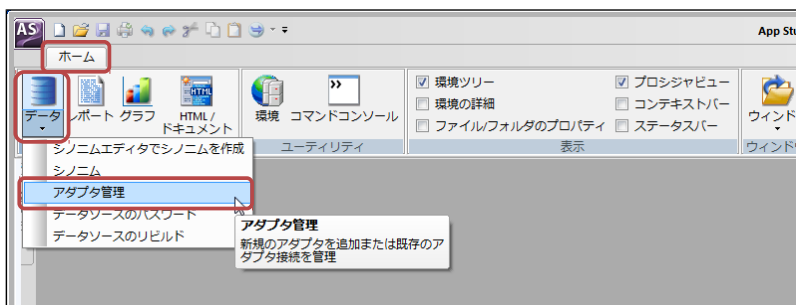
WebFOCUSがデータベースに接続するためには、シノニムだけではなく、データアダプタの設定も必要です。データアダプタはWebFOCUSがデータベースに接続するための設定のことで、接続するデータベースごとに設定する必要があります。

接続するデータベースの種類ごとにライセンスが発生します。(1ライセンスはWebFOCUSに付属しています。) CSVファイルなどのフラットファイルの検索は、データアダプタの設定も、ライセンスも不要です。

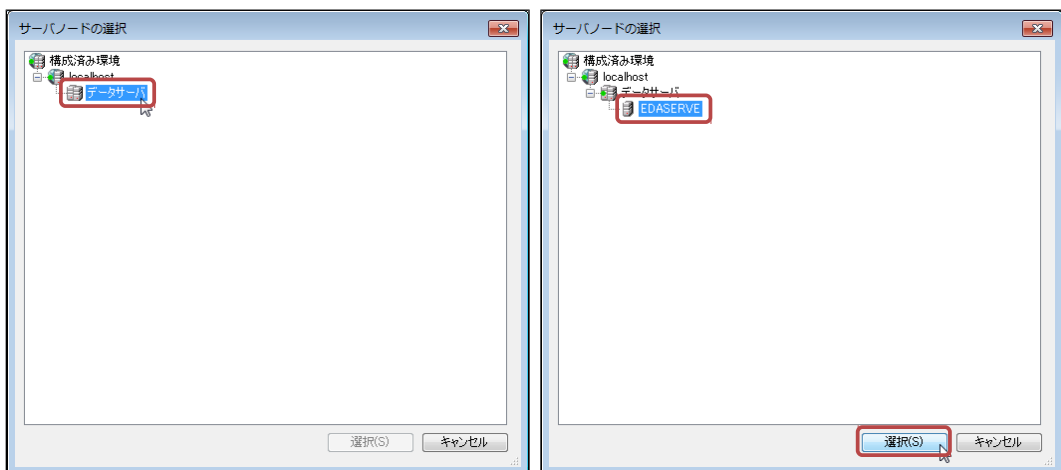
データアダプタの設定手順

研修環境では、Microsoft Accessの「wf_training.mdb」のデータアダプタを以下の手順で設定済みです。

(1) [ホーム]タブの[データ]をクリックし、[アダプタ管理]を選択します。

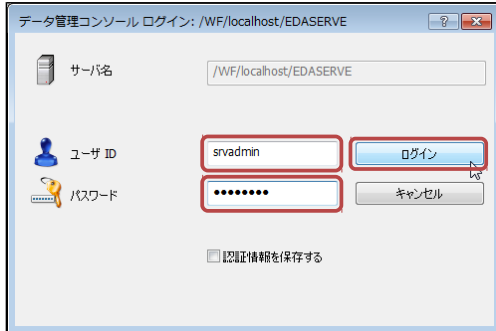


(2) [サーバノードの選択]ウィンドウの[データサーバ]をダブルクリックし、[EDASERVE]を表示します。
[EDASERVE]を選択し、[選択]ボタンをクリックします。

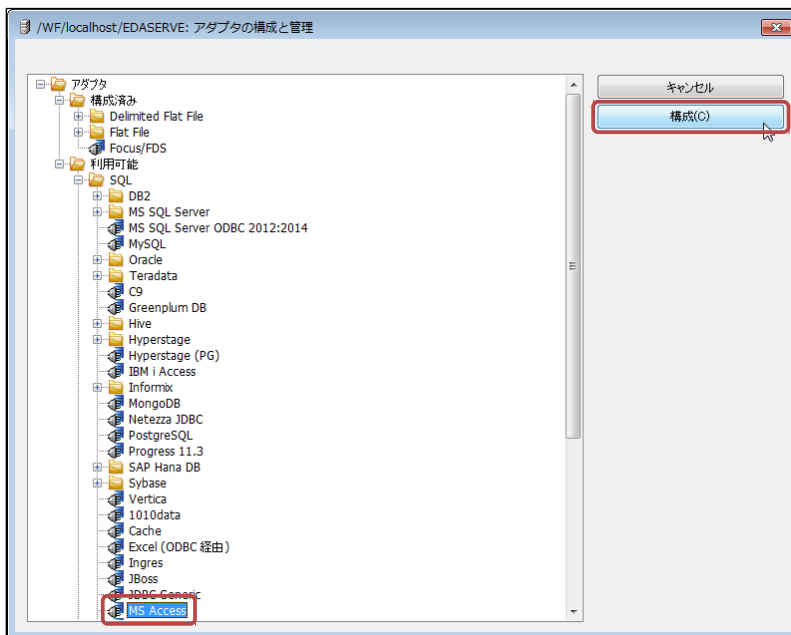


(3) WebFOCUSのサーバにセキュリティが設定されている場合は、以下の画面が表示されるため、[ユーザID]と[パスワード]を入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。

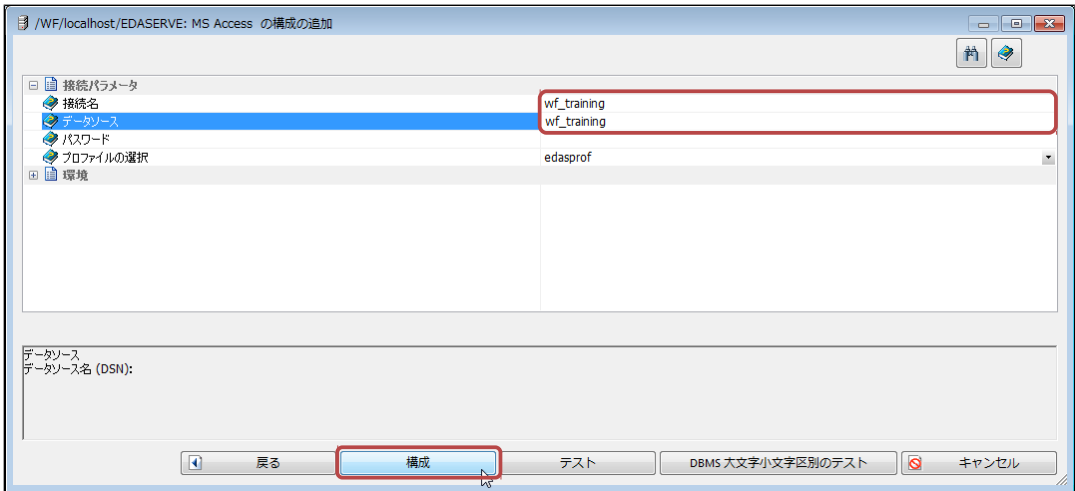
※デフォルトの管理者IDは「srvadmin」です。(パスワードは任意の値が設定されています。)



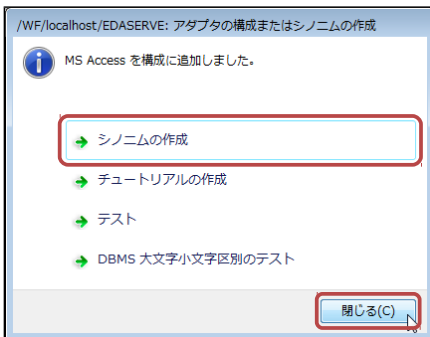
(4) 次のウィンドウでは、[利用可能]→[SQL]の順でフォルダを開き、[MS Access]を選択して[構成]ボタンをクリックします。



(5) [接続名]と[データソース]に「wf_training」と入力し、[構成]ボタンをクリックします。



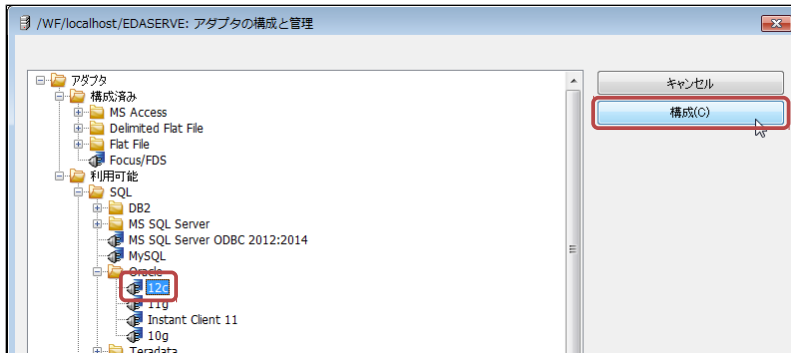
(6) データアダプタを設定できました。[閉じる]ボタンをクリックしてウィンドウを閉じます。
※[シノニムの作成]ボタンをクリックして、シノニムの作成を続けて行うこともできます。



Microsoft Access以外のデータアダプタの設定

例えばOracle のデータアダプタを新規に追加する場合は、アダプター一覧のウィンドウで[利用可能]→[SQL]→[Oracle]の順でフォルダを開きます。

Oracleのバージョンを選択して[構成]ボタンをクリックし、TNS名やユーザ名、パスワードなどを設定します。



データアダプタをWebコンソールで設定する

データアダプタの設定は、Webコンソールと呼ばれるWebFOCUSの管理用の画面からも設定できます。

Webコンソールは、以下のURLで起動します。(研修環境では、「http://localhost:8121/」で起動します。)

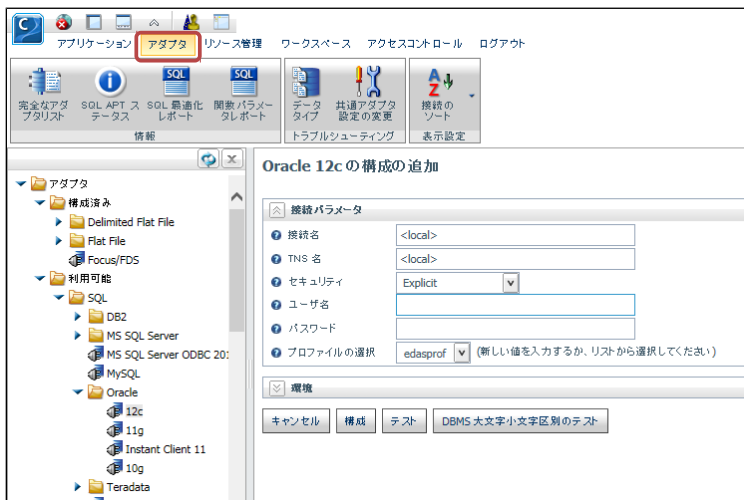
http://サーバ名 : ポート /

サーバ名 : レポートサーバのホスト名もしくはIPアドレスです。

ポート : レポートサーバのWebコンソール用のポート番号です。デフォルトは8121です。

WebFOCUSのサーバにセキュリティが設定されている場合は、サーバ管理者IDでログインしてください。デフォルトの管理者IDは「srvadmin」です。(パスワードは任意の値が設定されています。)

Webコンソールの起動後は、メニューの[アダプタ]をクリックして設定します。



2 研修環境の設定

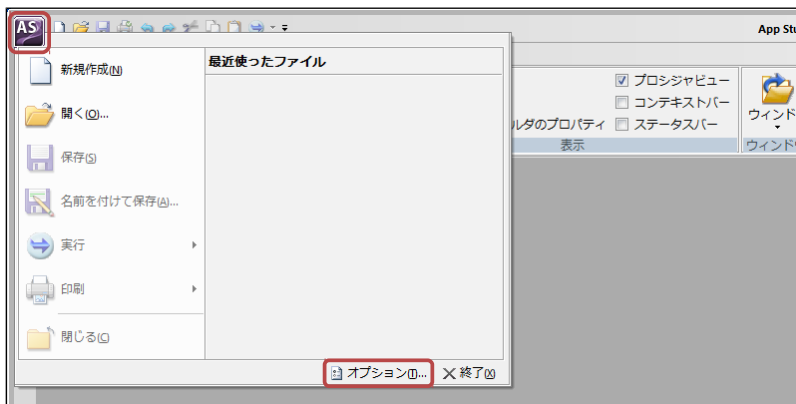
2.1 研修環境の設定

研修環境では、いくつか設定を変更・追加しています。

研修環境と画面の表示や動作が異なる場合は、必要に応じて設定を変更してください。

App Studioのオプション設定

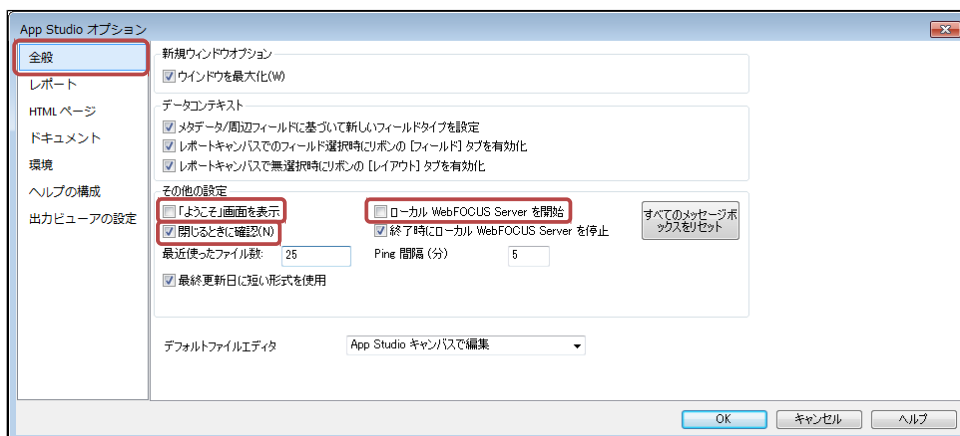
画面上部の[アプリケーションメニュー]をクリックし、[オプション]を選択します。



[全般]

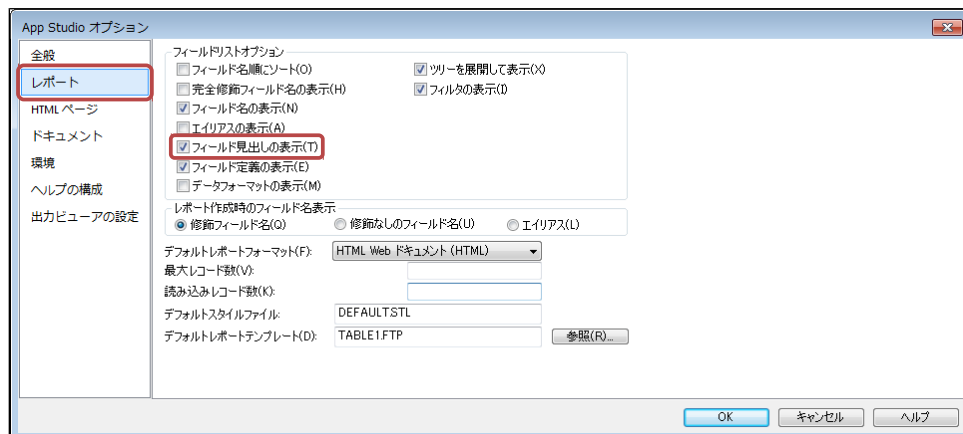
- 「[ようこそ]画面を表示」のチェックを外す
- 「閉じる時に確認」のチェックを入れる
- 「ローカル WebFOCUS Server を開始」のチェックを外す

研修環境では、ローカル開発用のWebFOCUSがインストールされています。この設定を解除することで、ローカル開発用のWebFOCUSをApp Studio使用時に起動しません。



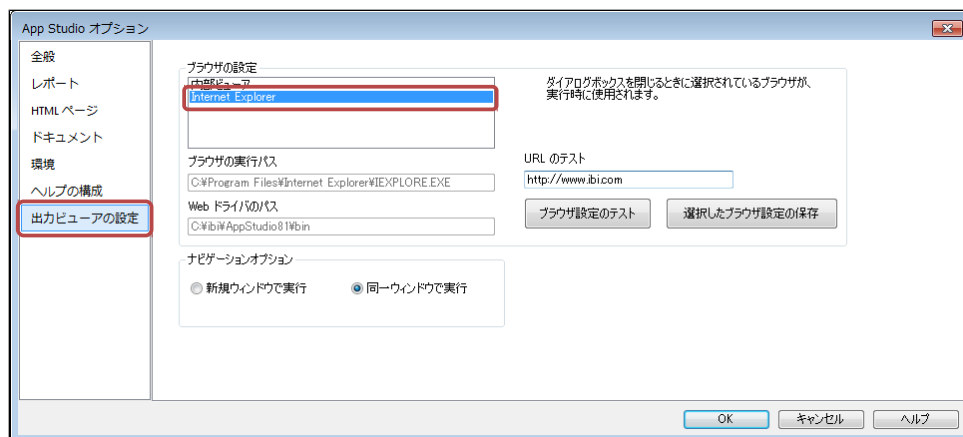
レポート

- [フィールド見出しの表示]のチェックを入れる
JOINキャンバスでマスターファイル中のTITLE属性を表示するために設定します。



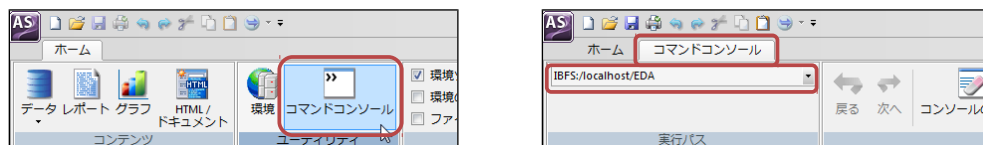
出力ビューアの設定

- [ブラウザの設定]を「Internet Explorer」に変更



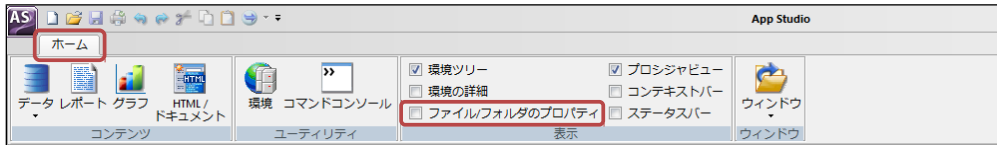
コマンドコンソールの設定

コマンドコンソールは、簡単なコマンドを試す際に使用する画面です。
このコマンドコンソールの環境設定として、[ホーム]タブの[コマンドコンソール]をクリックし、[コマンドコンソール]タブの[実行パス]グループで「IBFS:/localhost/EDA」を選択します。

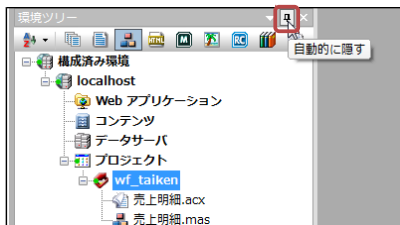


パネルの設定

App Studioの初期起動時には右側に[ファイル/フォルダのプロパティ]パネルが表示されますが、ウィンドウの高さによってはHTMLキャンバス起動時の[タスクとアニメーション]パネルが見えない場合があります。そのため、研修環境では[ホーム]タブの[ファイル/フォルダのプロパティ]のチェックを外し、[ファイル/フォルダのプロパティ]パネルを非表示にしています。

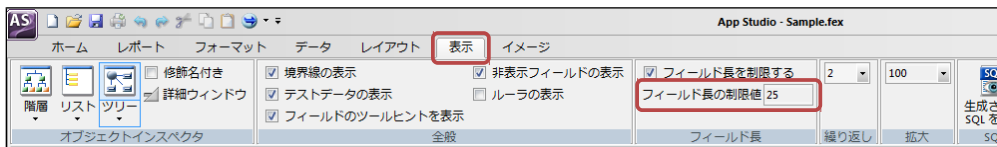


また、[環境ツリー]パネルの初期設定は画面に常に表示される[ドッキング]ですが、上部のボタンで[自動的に隠す]に変更し、パネル名にマウスカーソルをあてたときにのみ表示する設定に変更しています。



レポートキャンバスの設定

レポートキャンバスの[表示]タブの[フィールド長の制限値]は、初期設定の「15」から「25」に変更します。



この変更は、研修のサンプルデータの「売上」や「定価」など、桁数の多い数値データのキャンバス上のプレビュー表示を見やすくするための設定です。

- [フィールド長の制限値]が「15」の場合
売上は「>>」と表示されます。
- [フィールド長の制限値]が「25」の場合
売上は「11」と表示されます。

納品年	売上
Axxx	>>
Bxxx	>>

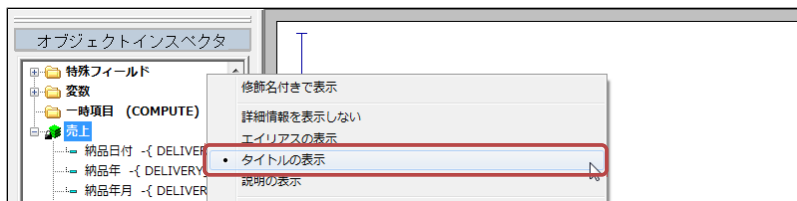
納品年	売上
Axxx	11
Bxxx	11

TITLE属性の表示設定

研修で使用するマスターファイルには、TITLE属性で日本語の項目名を設定しています。このTITLE属性をレポートキャンパスなどの項目一覧に表示する設定を行っています。

例えば、レポートキャンパスの[オブジェクトインスペクタ]上で右クリックし、[タイトルの表示]を選択するとTITLE属性が表示されます。

※この操作により、[一時項目(COMPUTE)の作成]ウィンドウの項目一覧にもTITLE属性が表示されます。



[オブジェクトインスペクタ]以外に、以下の項目一覧においても右クリックして[タイトルの表示]を選択しています。

- レポートキャンパスの[式ビルダ]ウィンドウ
- 条件値設定時にデータベース中の項目一覧を表示する[値の検索ウィンドウ]
- DEFINEキャンパス
- MATCHキャンパス
- HTMLキャンパスの[設定]パネルで、[動的]選択時の[値フィールド]と[表示フィールド]

JOINキャンパスの項目一覧で[タイトルの表示]を選択した場合、TITLE属性の表示はその起動したJOINキャンパスのみで有効です。

JOINキャンパスでTITLE属性を永続的に表示したい場合は、App Studioのオプションで設定します。画面上部の[アプリケーションメニュー]をクリックして[オプション]を選択し、[レポート]の[フィールド見出しの表示]のチェックを入れます。

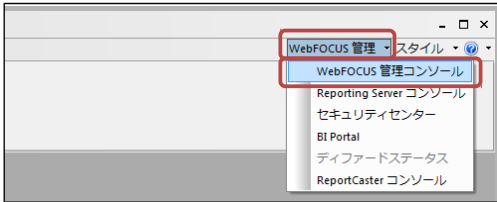
ファイルの割り当て

研修環境では、プロジェクト(.fex)、マスターファイル(.mas)、アクセスファイル(.acx)をWindowsのエクスプローラーでダブルクリックした際にテキストエディタ(Windowsの「メモ帳」)で開けるように設定しています。

(参考) オートプロンプト機能の設定

変数を含むプロシジャを実行するとオートプロンプト機能によって変数値の入力画面が表示されました。このオートプロンプト機能は、デフォルトでは無効ですが、通常インストール時に以下の手順で有効にします。設定は、管理者向けの設定画面であるWebFOCUS管理コンソールで行います。

(1) App Studioの右上の[WebFOCUS 管理]をクリックし、[WebFOCUS 管理コンソール]を選択します。



WebFOCUS管理コンソールは、以下のURLでも起動できます。

(研修環境では、「http://localhost/ibi_apps/console/webfocusconsole.jsp」で起動します。)

http://サーバ名/ibi_apps/console/webfocusconsole.jsp

※サーバ名には、Webサーバのホスト名、もしくはIPアドレスを指定します。

(2) ユーザIDとパスワードの入力が求められた場合は、管理者IDでログインします。

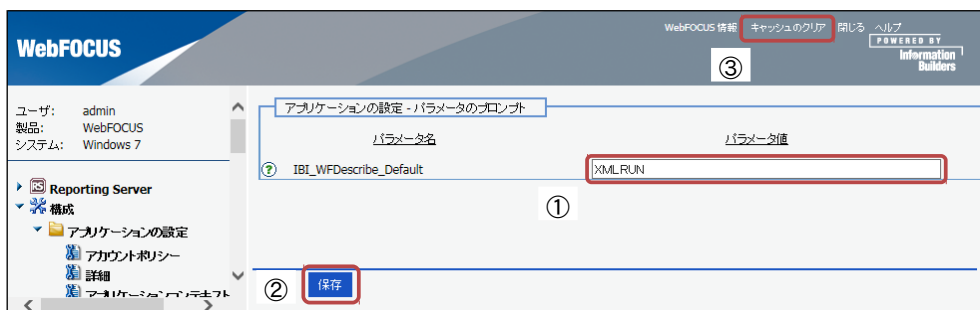
※デフォルトの管理者ID/パスワードは「admin」です。



(3) 左側のメニューから[構成]→[アプリケーションの設定]→[パラメータのプロンプト]を選択します。



(4) オートプロンプト機能を有効にする場合は、「IBIF_WFDescribe_Default」に「XMLRUN」と指定します。
[保存]ボタンをクリックした後、画面上部の[キャッシュのクリア]ボタンをクリックしてブラウザを閉じます。



「IBIF_WFDescribe_Default」には以下の値を設定できます。主に使用する値は「OFF」か「XMLRUN」です。

OFF	オートプロンプトの画面を表示しません。
XML	オートプロンプトの画面を表示しません。XMLを画面に表示します。
XMLRUN	オートプロンプトの画面を表示します。[注1]
XMLPROMPT	オートプロンプトの画面を表示します。[注1]

[注1] オートプロンプト機能の「XMLRUN」と「XMLPROMPT」の使用

「XMLRUN」と「XMLPROMPT」は、プロシジャ中のすべての変数に初期値を設定した場合に動作が異なります。
「XMLRUN」の環境ですべての変数に初期値を設定した場合、オートプロンプトの画面は表示されません。
「XMLPROMPT」の環境ですべての変数に初期値を設定した場合は、オートプロンプトの画面が表示されます。

初期値は、Webページやプロシジャから値が渡されなかった場合に変数に格納される値で、プロシジャ中に以下のコマンドで指定できます。

```
-DEFAULT &変数名 = 値 , &変数名 = 値 ...
```

(参考) サーバ側のファイル設定

以下は、通常インストール時に設定します。

研修環境と実行結果が異なる場合は、以下のファイルの設定を確認してください。

● C:\ibi\srv77\wfs\etc\edasprof.prf

```
*****
-* Profile generated on 01 December 2015 at 12:00:00
*****
-*
APP PATH IBISAMP
-*
ENGINE SQLMAC SET DATETIME OFF.....(1)
SET EXL2KLANG = JAPANESE.....(2)
SET CENT-ZERO = ON.....(3)
SET COUNTWIDTH = ON.....(4)
SET SHORTPATH = SQL.....(5)
ENGINE SQLMAC SET CONNECTION_ATTRIBUTES wf_training wf_training/,
```

(1) 日付データのデフォルトのフォーマットを日付タイプ(FORMAT=YYMD)にしています。

この記述が無い場合、日付データのデフォルトのフォーマットが、日付-時刻タイプ(FORMAT=HYMMDS)になります。時刻のデータを頻繁に使用しない場合は、OFF に設定すると便利です。

※上記の構文中の「SQLMAC」の部分は、ご利用のデータアダプタに応じて変更してください。

例えば、Oracleのデータアダプタを設定した場合は、「SQLMAC」の部分は「SQLORA」になります。

(2) Excel2000用の言語設定です。

(3) 数値の1桁目の0を表示します。

(4) 接頭語の件数による最大表示桁数を9桁に変更します。

(5) LEFT OUTER JOINでのNULL値の取り扱いを有効にします。

● C:\ibi\srv77\wfs\etc\nlscfg.err

```
LANG = JAPANESE
CODE_PAGE = 942.....(1)
CURRENCY = ¥.....(2)
DATEOUTPUT = DEFAULT
COLLATION = CODEPAGE
```

(1) キャラクターセットをSJIS にしています。

(2) デフォルトの通貨記号を「¥」にしています。

3 関連マニュアル

3.1 関連マニュアル

ここでは、WebFOCUSのマニュアルの入手方法と、研修と特に関連が深いマニュアルについてご説明します。WebFOCUSのマニュアルは、弊社のWebサポートサイトであるAWSC(Ashisuto Web Support Center)からダウンロードできます。

AWSCのご利用には、弊社とのサポート契約が必要です。

また、はじめてご利用頂く際は、AWSC利用アカウント登録が必要です。(アカウント登録時に、上記サポート契約締結後に発行されるサポートIDが必要になります。)

マニュアルの入手方法

(1) 以下のURLから、AWSCにアクセスしAWSC利用アカウントでログインします。

`https://support.ashisuto.co.jp/`

(2) AWSCにログイン後、画面上のメニューから[資料検索]を選択します。

(3) [技術資料]にチェックを入れ、[製品カテゴリ]から「WebFOCUS」を選択します。必要に応じて[キーワード]などを設定して[検索]ボタンをクリックします。

The screenshot shows the AWSC website interface. The search results table is as follows:

登録	製品名	タイトル	ファイル名	種類
	(WebFOCUS)	リリースノート WebFOCUS Version 7 Release 7 SP02	wf_relnotes_7702.pdf	技術資料
	ReportCaster	ReportCasterの構成 WebFOCUS for Windows Version 7 Release 7	wf_rc7702.pdf	技術資料
1328	その他 (WebFOCUS)	パッチの適用 WebFOCUS Developer Studio Version 7 Release 7 SP02 第2版	dev_patch7702hf1.pdf	技術資料

Callout box text: マニュアルの一覧が表示されます。

WebFOCUS研修補足資料 (WebFOCUS 8.1.05)

発行者 株式会社アシスト

アシスト

著作権所有 © 2016 株式会社アシスト この研修コーステキストの著作権は株式会社アシストが所有します。
当社の文書による許可なくして、いかなる手段による複製も禁止します。

本書に記載された内容を使用して、いかなる損害が発生しても、株式会社アシスト、および、著者、本書製作関係者は一切責任を負いません。

WFEXT8105-20170706